

# 《2018年10月宮古応援・賛美（うた）の旅 報告》

おしゃべり賛美歌・菅原早樹

9月の福島県いわき市に引き続き10月は、岩手県宮古市に伺いました。

宮古も2014年、2015年、2016年、そして今年と4回目になりました。

こちらは、3.11.いわき教会ネットワークの岩塚和男先生（宮古コミュニティチャーチの牧師でもあられます）にコーディネートをお願いして、4日間で7回のコンサートをさせていただきました。

10月24日（水）は朝、神戸空港から飛行機で仙台へ。仙台から新幹線で盛岡へ。盛岡から宮古まではバスの旅なのですが、今回はその途中の川井というところにある老人ホーム心生苑で1回目のコンサートをさせていただきました。

午後、川井のバス停で岩塚先生と、また大阪の堺からボランティアで来て下さったFさんと合流し、心生苑に向かいました。

こちらには教会のメンバーの方が入居しておられ、それをきっかけに訪問が始まったそうですが、みなさんが楽しみに集まって下さっていて感謝でした。

スタッフの方を合わせて40数名の方が集まり、手をたたいたり、一緒に歌ったり楽しい時を過ごしました。



10月25日（木）午前は鉾ヶ崎公民館。こちらは、2016年にも伺ったところで、近くに復興住宅が建っている地区の公民館です。また、以前仮設住宅におられた方がこちらの管理をしておられるということで、仮設の時代から変わらずに美味しい

珈琲を入れてもてなして下さいます。

こちらは30数名の方が集って下さり、やはり、皆さんと歌う歌を交えながらのコンサートでした。

同じく25日の午後は津軽石公営住宅の集会所で、こちらは復興住宅の集会所です。こちらにも2016年に引き続き2回目でした。

こちらは10数名の小ぢんまりとした集会でしたが、皆さんとの距離がとても近く、とても和やかに和気あいあいとしたひと時となりました。



津軽石の皆さん手作りのプレゼント

この日の集会後、宮古の名所の一つ「浄土ヶ浜」に連れて行っていただきました。宮古ではいつも、沢山の御奉仕をさせて頂いてあまりゆっくり周辺を見学する時間がなかったのですが、以前から行きたいと思っていたところでしたので、とても感激しました。



とても美しい場所でしたが、震災の爪痕もしっかり残されていました。  
今はきれいに建て直されていたレストハウスも大きな被害に遭っていたことが銘板に残されていました。



10月26日（金）午前は、西町第2公営住宅の集会所。この日は社会福祉



協議会の方も来て下さり、こちらも小さな集会所でしたが、住宅の方よりもむしろ近隣の方がいらして下さっていたようです。

26日午後には、磯鷗公営住宅の集会所でしたが、こちらは、あとでも少し書きますが、まだ集会所の自治会等、コミュニケーションが確立されて



磯鷗住宅集会所

いないところで、社会福祉協議会の方と、教会のメンバー、スタッフ以外には、2名程の方が来られたのですが、この方々が来て下さっただけでも随分大きな恵みだったと感じています。



4日目の27日は、午前は田老の28分団、午後は30分団の集会所でのコンサートでした。

どちらも10数名の方が集って下さり、ともに楽しい時を過ごしました。

最後の30分団の時は、「もうおわり！？」

早樹ちゃん！アンコール！！」なんて、笑顔でコールして下さり、本当に皆さんが楽しんで下さったんだなあ、と私の方も嬉しくなりました。



感慨深かったのはこの日の昼食でした。実は、2015年にこの地域に伺った時はまだ仮設住宅の隣の仮設商店街で営業しておられた「善助屋食堂」というお店が立派な店舗になっていたからです。

そのお店で、以前頂いたのと変わらずに美味しい地域の名物、「どんこ唐揚げ丼」をいただきました。



左上、現在の店舗  
左下、2015年10月当時の仮設店舗  
1階左端が善助屋食堂

右上、どんこ唐揚げ定食  
右下、岩塚師とどんこ唐揚げ丼の幟



今回、全ての集会所を合わせて 130 名もの方々に歌を聞いていただくことができ、本当に感謝でした。今回の訪問先では、できる限り会場に来て下さった皆さん全員と握手をさせていただいたのですが、皆さん痛いほどに手を握り締めて「ありがとう」「またきてね」と言って下さったことがとても印象的でした。

宮古の町では、震災後、60 ヶ所、2000 世帯の仮設住宅が建てられました。実質入居は 1800 世帯ぐらいだったかもしれないとのことですが、それらの仮設住宅が今年 3 月ですべて閉鎖され、公営住宅は 24 ヶ所、760 世帯の方が入居されているそうです。

それ以外の方は、家を再建されたか、あるいは他の場所へ転出されたかのどちらか、ということになります。実際宮古というところは、学校、就職などの問題で、毎年春には他の地区への転出者がたくさん出るそうです。

復興住宅への入居は 3 年ぐらい前から始まっていますが、宮古の近隣の山田町ではまだ、様々な事情で復興住宅の建設、入居が遅れているとお聞きしています。

このような中で、今までは復興支援と言っても、仮設住宅におられる被災者への支援が中心でしたが、今は、家を再建された方、復興住宅に入居された方、また、震災前から同じ所に住んでいる人々、区別がなくなってきたとのことでした。

今年、9 月の東北応援団の「ありがと音頭フェスティバル」における高橋和義先生のご報告にもありましたが、今後の課題は「新しいコミュニティの成立、確立」ということだそうです。

また人間関係においても色々難しいところがあり、今までの支援とは支援の形が変わってきて、このコミュニティづくり、またコミュニケーションの難しい地域のサポート、というのが岩塚先生（ボランティアチーム）の働きになっていくとのことでした。

本来時間をかけてできるはずのコミュニティがなかなか即席にはできないこと、またそういうコミュニティが、都会では必要ないこともあるかもしれないが、宮古のような地方都市では必要な町の機能なので、そのためのお手伝いをしていく必要があるということでした。

ただ現在、岩塚先生は、社会福祉協議会と連携して支援を行っておられますが、震災から 10 年（あと 2 年）で一応行政からの支援が一区切りとなり、行政の予算もなくなること、また地域支援員の方もやめなければならないことになっていて、それ以後、社会福祉協議会がどの程度かかわっていく事ができるのか、今は全く分からない状態であるとのことでした。

関西から、東北は遠いところであり、「まだ東北に行く必要があるのか」と思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、現地に行けば、支援の必要性は明らかです。

私自身もひとまず 10 年は続けるという思いで続けてきましたが、これからのことについても引き続き祈って行きたいと思っています。

ぜひ皆様も、続けて東北のことを覚えてお祈りいただければ幸いです。

今回の東北応援賛美（うた）の旅にあたり、東北応援団 Love East さんより旅費、活動費の一部をご支援をいただきました。感謝してご報告いたします。続けて、東北応援団のお働きも豊かに祝されますように！

また現地でお世話になった皆様、背後でお祈り下さった皆様、導いて下さった神様に心より感謝致します！